

平成 30 年度に係る部局評価

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 文学部・文学研究科 | 21. 微生物病研究所 |
| 2. 人間科学部・人間科学研究科 | 22. 産業科学研究所 |
| 3. 外国語学部 | 23. 蛋白質研究所 |
| 4. 法学部・法学研究科 | 24. 社会経済研究所 |
| 5. 経済学部・経済学研究科 | 25. 接合科学研究所 |
| 6. 理学部・理学研究科 | 26. レーザー科学研究所 |
| 7. 医学部・医学系研究科 | 27. 低温センター |
| 8. 医学部（保健学科）・医学系研究科（保健学専攻） | 28. 超高圧電子顕微鏡センター |
| 9. 歯学部・歯学研究科 | 29. 環境安全研究管理センター |
| 10. 薬学部・薬学研究科 | 30. 国際教育交流センター |
| 11. 工学部・工学研究科 | 31. 生物工学国際交流センター |
| 12. 基礎工学部・基礎工学研究科 | 32. 太陽エネルギー化学研究センター |
| 13. 言語文化研究科 | 33. 国際医工情報センター |
| 14. 国際公共政策研究科 | 34. 数理・データ科学教育研究センター |
| 15. 情報科学研究科 | 35. 日本語日本文化教育センター |
| 16. 生命機能研究科 | 36. ナノサイエンスデザイン教育研究センター |
| 17. 高等司法研究科 | 37. 知的基盤総合センター |
| 18. 連合小児発達学研究科 | 38. 核物理研究センター |
| 19. 医学部附属病院 | 39. サイバーメディアセンター |
| 20. 歯学部附属病院 | |

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:文学部・文学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大学院等高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ」の提供科目を21科目に拡充し、さらなる拡充のための体制構築を図るとともに、「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」の充実のため、多くの授業科目を提供したこと、及びAO入試において、広報活動に尽力し前年度を上回る志願者を獲得したことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大学院高度副プログラム「グローバル・ジャパン・スタディーズ科目」を拡充し、「国際日本研究」コンソーシアムとの共同でGraduate Conference in Japanese Studiesを開催して若手日本研究者の育成に努め、「グローバル・ジャパン・スタディーズ」プログラムの教育実践の周知と教育体制の拡充を図る等、グローバル化に向けた取り組みが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		幅広い評価項目からなる新たな教員業績評価制度を試行し、次年度からの本格実施に向けて、同制度を整備したことが評価できる。また、「文学研究科将来計画WG」を設置し、人文社会科学系戦略会議の「人文系教育研究組織構想検討WG」による報告書について詳しく検討を行う等、大学院教育改革に向けた取組みを行ったことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 博士課程入学定員充足率（博士前期・修士）について、実績を大きく伸ばし、充足させていることが評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		リーディング大学院教育プログラムの成果が部局教育に広く取り入れられ、部局が目指す共創知教育として還元されている点が評価できる。 また、部局の経費を用いて、未来共生イノベーター博士課程プログラム在籍学生12名をトロント大学に派遣し、海外研修(大阪大学およびトロント大学の教職員による英語での授業、実習)を行ったこと、また、来年度に向けて、未来共生プログラムの同研究科への内部化を具体的に検討し、共創知教育にかかわる授業科目数が飛躍的に上昇する予定であることが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		平成30年度日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進授業「実社会対応プログラム」として全国で採択された8件のうち、本部局から2件採択されたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		未来共創センターが中心となり、企業との大阪大学オムニサイト協定を新規に5件締結し継続分と合わせて計10件とするなど、大学と社会の「結節点」の構築を進展させたことが評価できる。また、未来共生センターを中心としたサイエンスカフェや市民対象のイベント、公開講座等の実施件数は前年度を上回っており、社学連携の促進が認められる。
【グローバル化】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		大阪大学ユネスコチェア「グローバル時代の健康と教育」が、日本全国での採択件数がわずか4件の中で、大阪大学として初めて採択されたことは非常に高く評価できる。今後は、学内7部局、海外20機関、国内5大学、2研究機関、地方自治体、企業・法人と連携し、アジア地域における「健康と教育」に関わる教育研究拠点としてのネットワーク作りを通じ、教員や学生の国際的な交流の推進と地域コミュニティへの貢献を期待する。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学の改革の方向性に合わせた教員人事の基本原則と将来構想を検討し、若手教員の採用計画や女性および外国人教員の採用計画等を定めた点、さらに大阪大学ユネスコチェア運営のための担当要員を雇用するなど、部局の目標と計画に沿ったポスト運用を行った点が評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合(大学院)について、意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 外国語学部

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		例年開催している連携講座に加え、みのお市民活動センターとの共催で「マンスリー多文化サロン」を新たに10月から開催するなど、部局の特色を生かした社会貢献を行ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合（学部）について、全学的には高い水準にあるが、今後より一層の実績向上に努めてもらいたい。 公開講座等の実施件数について、新たに『阪大外国語学部×みのお市民活動センター マンスリー多文化サロン』を開催するなど、実績向上の取組が認められる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名：法学部・法学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		法学部法学科、国際公共政策学科および高等司法研究科と共同で「法曹コース」の具体的な制度を設計し、関連するカリキュラム編成を行ったことが認められ、国会で関連法案が成立すれば、2020年度から同コースを開設する態勢を整えたことは、当初の計画を上回るものとして評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合について、積極的に取り組むことで学部・大学院ともに実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評定とした。今後、担当理事と対話をしながら、実績値の向上に向けた方策の検討等に取り組んでいただきたい。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:経済学部・経済学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		国際公共政策研究科との共催によるメキシコ等ラテンアメリカの社会科学の研究留学支援制度で学生を海外派遣するなど学生の学習支援に努めていることが認められる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		部局の教員による啓発的な書籍の出版ならびにメディアでの積極的な情報発信が行われたことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合（大学院）について、意欲的に取り組むことで、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、クロス・アポイントメント実施件数について、積極的な制度活用により、これまでなかった実績を上げていることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:理学部・理学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 戦略性が高く意欲的な計画として、新規の国際科学特別コース(学部)開設に向けたワーキンググループを計4回開催し詳細に関する議論をおこなったこと、また本コースの募集要項・広報用リーフレットを作成したこと。また、コースの英語講義を担当する教員の配置を検討するなど共通教育のカリキュラム改革に向けて不可欠な多くの業務を担当していることが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。 基礎理学プロジェクト研究センター「挑戦的研究部門」において、新たに分野横断型の機器開発チーム「RoboLaboプロジェクト」をスタートさせ、学際的・異分野融合的研究分野の創出・育成を推進していることが認められる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 新たに理学研究科主催の公開講座シリーズを立ち上げ、6回実施した(のべ500人が受講)こと、大阪市立科学館との交流をすすめる、理学研究科の研究を紹介する展示ブースを制作し、3月30日に一般公開したこと、プレスリリース件数が昨年度12件から2倍以上増え29件となったことなどが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 ダブル・ディグリー・プログラム協定を今年度新たに3件締結し、計12件から15件に増やしたのに加え、今年度に学位(修士)を取得するものを輩出するなど実質的なプログラムの稼働が見られることが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。 外国人留学生比率及び日本人学生に占める留学経験者の割合についても、意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 公開講座等の実施件数について、広く一般の方を対象とした公開講座シリーズを始めるなど積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、大学実績に最も寄与していることが高く評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部・医学系研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1: 部局年度計画に対する達成状況評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 AI医療・研究に活用するビッグデータを集積・解析、臨床実装する体制を作り、AI医療技術を医学部附属病院内に社会実装するための研究を推進したこと、また、国内外の共同研究による共著論文を含む論文を多数発表するとともに(論文発表数909件)、産学連携クロスイノベーション、最先端医療イノベーション棟を拠点とした共同研究講座(24講座)、寄附講座(29講座)において研究活動を推進していることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 共同研究講座の数が平成29年度19講座から平成30年度24講座へと大幅に増加し、寄附講座と合わせて、その数は医学系研究科(医学科)において全国トップであることが評価できる。特許申請数も平成29年度87件から平成30年度136件へと大幅に増加したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 プレスリリース件数が前年度39件から今年度62件(見込)へと59%増加し、ホームページアクセス件数が前年度23.9万回から今年度45.2万回へと89%増加しており、積極的な広報活動とその成果が評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。 また、常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入金額について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部(保健学科)・医学系研究科(保健学専攻)

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 研究費獲得件数が増加(平成29年度9件→29件)したこと、特に企業や行政との共同研究契約数が大幅に増加(平成29年度5件→22件)したこと、保健学科ボーダレスデザイン医学研究センター(BDC)のオープンラボは100%入居を達成し、学内共同研究として、医学科、人間科学研究科、歯学研究科と共同して高齢者長期縦断疫学研究であるSONIC研究を遂行し、英語論文8報、国際学会4題発表(1題はYIA受賞)などの成果を上げたこと及びBDC棟の経費で「BDCさきがけ研究員」を雇用し、日本生化学会主催の「早石 修記念学助成金」を獲得後、オックスフォード大学に留学させたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 3校の海外大学から31名(29年度20名)の学部生・院生を受け入れ、高齢者医療に関する講義、見学を行い、韓国SIMGU大学訪問プログラムで学部学生25名、教員4名、放射線技師4名を受け入れ、放射線診療の研修、意見交換を行うなど、海外から積極的に受け入れたこと、また、海外の大学・研究機関とのMOU締結は18件(平成29年度15件)と増加し、国際共同研究6件(平成29年度4件)、海外からの招聘研究者も11人(平成29年度3人)と増加して、国際化を着実に進めていることが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント(評定に至った理由)】 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入件数について、目標値を下回ったものの実績を伸ばしていることが認められる。 また、常勤教員基礎データ入力率について、前年度から向上させるとともに高い水準を維持していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名：歯学部・歯学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	A	A

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		共同研究講座を新規に2つ設置、過去最高の科学研究費獲得金額、過去最高の共同研究・受託研究費総額であったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 博士課程入学定員充足率（博士後期・博士）について、研修医等への出願を働きかけるなどの取組により、充足させていることが評価できる。 また、全学生数に占める外国語力の基準を満たす学生数の割合（学部）について、海外派遣プログラムの実施により英語力向上への意欲を促進する取組が認められる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:薬学部・薬学研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 医薬品・医療機器規制科学プロジェクトを新たに立ち上げ、レギュラーサイエンス研究の一層の推進が可能な体制を整えたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 高度先導的医療人養成プログラムにおいて、参画大学間の連携強化とこれを基盤とする積極的なプログラム開発実施を行い、大阪大学がグローバルナレッジパートナー大学に指定するグローニンゲン大学やカリフォルニア大学でプログラムを実施するなど、これまでの実績を上回る7件の海外研修事業を実施したことが評価できる。
【業務運営】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。 国立大学法人初となる薬学部と大学院薬学研究科を一体化した「新全6年制教育改革」をスタートさせ、10年一貫の研究・教育を進める先進研究コースの志願倍率が昨年度を上回る3.8倍であったこと及び一般入試(Pharm.Dコース、薬学研究コース)では、薬学部入試を行う旧7帝国大学で唯一志願者数が増加するという実績が得られたこと、また、化学薬学と生命薬学の2領域に、基幹分野としてそれぞれ1研究室を新設したことが非常に高く評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 博士課程入学定員充足率(博士後期・博士)について、実績を大きく伸ばし、充足させていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択及び常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、新たな英語コースとして開設する電気電子情報工学専攻(博士前期課程)「グローバルサイエンス&エンジニアリングコース」の学生募集を開始したこと、部局独自に学業や研究、進路などについて悩んでいる学生をサポートする「レジリエンス・サポートルーム(学生支援室)」を昨年度に引き続き運営したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		融合研究の促進とイノベーションの創出を目指し、延べ4つのアリーナで各アリーナの特徴を出した専攻横断型フォーラムを開催し、多くの参加者を得たことが高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		すべての専攻に産学官共創大学院コースを設置し、2019年度に実施する大学院博士前期課程・後期課程学生募集要項を作成することで、産学共同研究を通じた新たな人材育成教育システムの準備を整えたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際交流委員会を中心として、工学部・工学研究科と海外の大学等との間における部局間学術交流協定の締結を戦略的に推し進め、平成30年度の新規締結協定9件を含めて計90件の部局間学術交流協定を締結していたこと、また、「生物資源と環境プログラム」を始め、その他10プログラムの実施により、学部生及び大学院生を海外の大学に派遣したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		工学部・工学研究科を紹介するギャラリースペースのリニューアルを行ったこと、前年度から開始しているSNSによる広報活動について、定期的に投稿を行い、フォロワー数が大幅に増加したこと及び新たに保護者向け説明会を開催し、工学研究科寄付パンフレットを作成・配付するなど、多くの戦略性が高く意欲的な計画を立案し、それに向けた積極的な取組と成果が見られることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入件数及び公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで目標値を上回り、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		分野横断・学際融合型の高度専門教育を目的とした低学年向けの基盤科目について計画の約3倍の11科目を新規開講し、さらに令和元年度から実施される全学の新カリキュラムにおける高度教養教育系科目として設定したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		若手研究者の論文発表数、メディア発信、国際共著論文、国際共著発表、受賞、外部資金獲得がすべて大幅に向上していること、また、共同研究講座2件を新設したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		講義1件、体感科学研究10テーマ、実感科学研究7テーマを担当するSEEDSプログラムにおいて、応募数が年々加速度的に増加しており、昨年度からも40%ほど増加していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムとして、「長寿命社会を支えるデータ科学と生体機械工学の融合博士人材育成特別プログラム」が新たに採択されたのに加え、ベトナム国家大学ホーチミン市科学大学と大学院DD協定を新たに締結したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		研究科長の下にキャンパスライフ支援室を設置し、承継ポストを用いて相談員(講師)を4/1に新規雇用することを決定したこと、また、研究科長裁量経費によるクロス・アポイントメント制度の活用により、女性教授を前年度1名から4名へと大きく増加させたことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、新規に締結した点が高く評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、所属研究者数が多い部局でありながら、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 マルチリンガル教育センターとの連携により、アクティブラーニングの少人数クラス制や英語e-ラーニング教育等を導入する言語教育の新カリキュラム実施体制を整えたことが評価できる。また概算要求プロジェクト「キャンパスライフ一貫型」言語教育によるグローバルプレゼンスの確立」の採択により、高学年次向けの専門英語教育の開発や学生の自律学習を支援するOUマルチリンガルプラザ構想の実現に向けた準備を進めたことが認められる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 箕面新キャンパスにおけるエクステンション・プログラムの準備として従来の箕面市との連携講座に加えて、10月から、みのお市民活動センターとの共催により、「マンスリー多文化サロン」を毎月開催したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 マヒドン大学(タイ)との間で応用言語学のダブル・ディグリー・プログラムを開始し、研究科の教育研究のグローバル化を推進したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 海外の大学と10件のクロス・アポイントメントを実施し、外国人教員や女性教員など、多様な人材の雇用と活用を推進したことが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国人留学生比率について、意欲的に取り組むことで実績を伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。 また、クロス・アポイントメント実施件数について、積極的な制度活用により、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 国際公共政策研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		学部教育との連携強化により学部生が大学院科目履修できる制度を立ち上げ、積極的に説明会等を実施し学生募集を行い、科目等履修生としてを受け入れに努めたことが認められる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国人留学生比率及び公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで実績を伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。 また、常勤教員基礎データ入力率について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 情報科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 研究科が中心となって実施した博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」の事後評価において、グローバルに通用する質保証された修了生が輩出されていること、幅広い多様なキャリアパスを描くことができていることなどが認められ、最高のS評価を得たことが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。 文科省Society5.0実現化研究拠点支援事業(11大学の申請中、本学の1件のみ採択)をはじめとし、JST CREST、科研新学術領域等の大型研究プロジェクト37件(平成29年度34件)を推進したこと、重点プロジェクト研究費が14.3億円(平成29年度から113%(7.6億円)増加)に達したこと、ダイキン工業との包括連携においては、共同研究・委受託研究(13件、6名)およびAI人材養成プログラム(4件、3名)などの実施に大きく貢献していること、2名が文部科学大臣表彰(科学技術賞)を受賞したことなど、総合的に非常に高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 組込み適塾(組込みシステム産業推進機構)を通じて、社会人を対象とした先進的組込みシステム技術者の人材育成プログラムを実施し、国内外でのニーズ把握、教育・学修状況のモニタリングに基づく、カリキュラムの改善を継続的にを行い、42機関から過去最高の57名(講座受講者延べ数は778名)の修了者を輩出したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 グローバルナレッジパートナーである上海交通大学 電子情報・電気工学科との間で、博士ダブルディグリー・プログラムを締結し、令和元年度から学生受け入れを開始することになったこと、また、学術交流協定のもと、従来の情報分野に加えて、スマートシティ分野(スマートキャンパス・スマートデータ)についても上海交通大学との間で設けられた戦略的マッチングファンドに新規プロジェクトを採用し、研究者間の積極的な交流を開始したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 外国大学との国際共同学位プログラム数について、前年度に引き続き、新規に締結した点が高く評価できる。 また、常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額について、積極的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:生命機能研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際性に富む人材育成のため、外国語による授業科目の割合を3.8%から7.4%に増加させたことが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		CREST研究代表(5件)、新学術の領域代表(2件)、海外のグラント2件(HFSP及びNIH)、JSPSの日中韓フォーサイト事業(1件)等の大型研究費を獲得し、各種メディアへの情報件数も32件から72件に大きく増加していることが非常に高く評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		クロス・アポイントメント制度を活用してUCLとOxford大学等の優れた研究者をリクルートすることに成功したこと、また、国際共同研究促進プログラムで採択されている2件の他、台湾の大学と部局間学術交流協定を結んだ上で、ジョイントラボを設置した2件を加えて、計4件を設置したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの論文数について、論文発表とその前提となる論文投稿のインセンティブを高める方策を検討することで実績の向上が期待できる。 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得金額及び公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 高等司法研究科

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	B	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		早期卒業希望者(1年次)に対する2回のガイダンスを通じた履修支援のほか、法学部の入学時オリエンテーション及び保護者懇談会での早期卒業制度の説明や、オープンキャンパス時に、法科大学院制度の概要及び早期卒業制度の説明を行ったことが評価できる。一方で、中央官庁あるいは地方自治体へのインターンシップ派遣ができていないことや、法律文書錬成講座の受講者数が減少している点は改善が必要である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		本研究科の教育課程の編成を目指し、法曹界、経済界、自治体関係者および他大学法科大学院の教員等の協力を得て、「教育課程連携協議会」の設置に向けた準備を進めたことが認められる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 博士課程入学定員充足率(博士後期・博士)及び外国人留学生比率について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評定とした。今後、担当理事と対話をしながら、実績値の向上に向けた方策の検討等に取り組んでいただきたい。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 連合小児発達学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 COI streamで開発中の双方向性型睡眠教育アプリについて、東大阪市における乳幼児の養育者を対象にトライアルを行い、中間解析にて睡眠習慣が改善することが確認でき、社会実装されていること。また、同アプリのAI化のために、NICTの外部委託研究費(年間1,000万円)を新たに獲得したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 戦略性が高く意欲的な計画として複数の自治体との積極的な共同事業を展開し、子供と養育者への支援をはじめ、いくつもの取組を着実に進め、成果を上げていることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得件数について、インセンティブを高めるため業績評価システムを導入するなど、獲得に向けた取組が評価できる。 常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで実績を伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部附属病院

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S S	S	S S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 関連病院との緊密な連携により、阪大プログラムへの専門医登録者数を確保することを掲げ、平成29年度新規登録者49名(試行4領域: 外科、病理、眼科、小児科)から平成30年度新規登録者230名と大幅に増加させていることが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。 新規試験や新規シーズを積極的に採用し、また、支援シーズ2件が薬事承認に至るとの特記すべき成果を出している。ネットワーク接続した病院数の増加、それによる10件の臨床研究、先進医療Bとして実施するがん遺伝子パネル検査数50例、「AI基盤拠点病院」の確立に向けた体制整備など多くの戦略性が高く意欲的な計画に取り組み、成果を出していることが高く評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 糖尿病センターを開設し、同センター内に戦略的に管理栄養士を配置することで、指導件数が飛躍的に増加したこと、国際共同臨床研究支援の支援件数の増加、脳死下・心停止下臓器移植の前年実績を上回る実施件数、国内2例目となる成人発症患者への脳死小腸移植実施により日本の移植医療に大きく貢献していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 文書作成や法的手続きのアドバイス等それぞれのプロジェクトに応じた支援を行い、支援件数は学内6件、学外8件と平成29年度より3件の増となっていることが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 複数の病棟をグループ化して入退院の情報を共有することで、効率的な病床運用を可能とし、新規入院患者数を800人増加(1月時点)させたことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント(評定に至った理由)】

常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていること、かつ大学実績に最も寄与していることが高く評価できる。

常勤教員基礎データ入力率について、実績は低下しているものの、未更新者に直接確認し入力依頼をするなど実績向上のための取組が認められる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 歯学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		学外(医学部附属病院、介護施設等)での実習を全員必修とした取り組みが平成31年2月17日に「文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム」の総括シンポジウム(岡山市)にて発表され、短期間で制度設計とカリキュラムの実施を成し遂げた事に対して大きな評価を受けたことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際歯科医療センターのような、外国人に対する歯科医療の支援の一元化を目的とした拠点の整備は、全国の大学・歯科大学の附属病院においても類を見ないものであり、そのインバウンドおよびアウトバウンド活動がさらに充実している。また、外国人アドバイザーボードによる評価を実施し、概ね高評価を得るとともに、さらなる改善のための指摘を受け、来年度に向けたフィードバックを検討していることなどが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得について、積極的に取り組むことで目標値を大きく上回る実績を上げていることが評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合及び常勤教員基礎データ入力率について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:微生物病研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		高度副プログラムについて、他部局への周知活動の展開や英語シラバスの強化を行い、留学生を中心に受講生が9名から22名に増加したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教員が文部科学大臣表彰などを受賞していること、AMED感染症研究国際展開戦略プログラム(J-GRID)において、多くの論文を発表していること及び平成30年度に実施された共同利用・共同研究拠点の中間評価結果がSであったこと(医学・生物学系のS評価は2機関のみ)が評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		地域の市民との交流を深めるべく、近隣地域公民館との共催講演会(54名参加)や、大阪大学・三井不動産との協定を活用したEXPOCITYでのイベント(大阪大学共創DAY出展、ガラスショーケース展示1ヶ月間、はんだいラボ枠でのイベント2回)を行っていること、高校対象企画として、高校生対象サマースクール(45名参加)を開催していること及び平成30年度からの新規企画として高校教員対象講演会(64名参加)を実施していることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		微研独自の奨学金制度である谷口海外奨学生として2名の留学生を受入れており、平成30年度からの新規企画としてインドネシアアイルラング大学から4名の研修生を1ヶ月間受入れていること、国際的な高大接続の取り組みとしてタイ王国スワンクラブ高校から生徒10名を1週間受け入れていること及び邦人医師を対象としたタイ・ミャンマー国境における現地で学ぶ熱帯感染症医師研修(14名参加)を実施していることが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		奨学寄附金について、若手研究者の研究助成金の獲得により44件、210,723千円で平成29年度の35件178,042千円から大幅に増加していること及び研究者対象のコンテンツが多かった微研公式ウェブサイト一般向けページの公開などして広報活動を活発に行っていることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人あたりの論文数について、実績は低下しているものの、英語ネイティブ講師によるライティング研修を所内で開催するなど、実績向上の取組が認められる。 常勤教員公募に占める国際公募の割合について、前年度から向上させるとともに高い水準を維持していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:産業科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		部局予算の組み替えにより大学予算の14.2倍のRA予算を確保し、JSPS特別研究員採用への支援、国費外国人留学生の受け入れ、特任研究員の雇用等の方策により、博士後期課程学生への経済的支援を積極的に行ったことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、グローニンゲン大学との連携を強化し、グローニンゲン大学が推進する「データサイエンスを活用したマテリアルサイエンス研究」を推進したこと、国際連携研究ラボを通じた国際的な研究連携交流を推進したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		産研インキュベーション棟の充足率を昨年度以上の90%台の高水準に維持しており、共同研究部門は年1件のペースで順調に設置され現在3件と過去最高水準にあること、また、産研テクノサロンをはじめアウトリーチ活動を活発に実施していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの競争的資金（科研費以外）の採択件数について、積極的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 また、常勤教員基礎データ入力率について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:蛋白質研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		学生の奨学支援を積極的に行い、13,265千円(前年度比60%増)をRA、奨学生の経費として支出したこと、また、大学院への進学を希望する外国人研究生として9名の研究生を受け入れていることが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教授1名が平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)を受賞したこと、医薬基盤・健康・栄養研究所との間で双方向のクロス・アポイントメント制度に関する協定を締結し、共同研究を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		一般に企業では保有や利用が困難な超高磁場NMR装置群、最先端クライオ電子顕微鏡群を企業研究者に開放、あるいは共同研究を通じた利用を図り、両装置群を合わせてのべ22社が利用したこと、また、39件のセミナー/ワークショップ、出前講義、研究室見学等を実施し、のべ参加者人数が平成29年度を大きく上回ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員一人当たりの論文数について、研究所内だけでなく研究所外との連携により共同研究を促すなど、実績向上のための取組が評価できる。

常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額について、外部資金の獲得額に応じて配分額が変動する仕組みを導入するなど実績向上のための取組が評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:社会経済研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		所員一人当たり(専任助教以上)の Social Sciences Citation Index に収録されている国際学術誌への論文掲載数1.63本、所員一人当たり(専任教員)の被引用数122.33件の実績が優れていると評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際学術誌を継続して発行するとともに、教員に占める外国人比率が高く、32件の国際共同研究を始め、外国人研究者の雇用、招へい等を積極的に行っており、国際研究拠点としての活動が評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得件数・金額について、積極的に取り組むことで実績を伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評定とした。今後、担当理事と対話をしながら、実績値の向上に向けた方策の検討等に取り組んでいただきたい。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 接合科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		国際溶接技術者コースで、国際的に活躍できる高度溶接専門技術者・管理技術者を育成した。計11名が国際溶接技術者資格を取得したこと、大陽日酸、ベトナムジャパングス、ハノイ工科大学機械工学部、研究所の4者による国際産学連携共同研究の調印式が、在越日本大使館の後援により日越関係樹立45周年記念の記念行事として行われ、日越首脳共同声明の中に「国際的な産学連携共同研究を通じた将来のベトナムの科学技術人材の育成において協力することを決定した。(抜粋)」として盛り込まれたことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、研究所の国際共同研究員制度、(JIJReC)などを活用することにより、国際共同研究の数は、平成30年度は16件となり、平成29年度の9件から大幅に増加したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ハノイ工科大学に設置した国際ジョイントラボの活性化のために「大阪大学接合科学研究所ベトナム溶接研究会」を発足させ、JETROハノイと発足記念セミナーを開催したこと、さらには協働研究所、共同研究部門をそれぞれ1件新たに開設したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		「大阪大学接合科学研究所ベトナム溶接研究会」を発足させ、在ベトナム日系企業を中心に民間企業が同研究会に参画し、ハノイ工科大学と本研究所と民間企業による国際的な産学連携の基盤を整備したこと、また、上海交通大学、王立メルボルン工科大学、ハノイ工科大学に3つの国際ジョイントラボを新たに発足させたことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの競争的資金（科研費以外）の採択金額について、大型プロジェクト獲得のために組織として意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、積極的に取り組むことで目標値を上回り、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:レーザー科学研究所

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ベトナムの海外連携オフィスを中心に現地シンポジウム・スクール開催や、学生の交換留学等を実施したこと、また、本学在籍のフィリピン留学生のシンポジウム及びフィリピン大学での本学との交流シンポジウムを開催し、東南アジア地域での研究者・留学生の交流強化に貢献したことが評価できる。
【研究】	SS	平成30年度計画の達成状況が非常に優れている。
		自動車メーカーとして本学初となる本田技術研究所の共同研究部門を発足させた他、本学初の外資系企業であり世界最大級の国際企業である韓国のサムスン電子(日本サムスン研究所)との共同研究部門を次年度設置するための取組を実施したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		所内に産学連携実践の場として「レーザーオープンイノベーションプラットフォーム」を整備し、企業との共同研究立ち上げの議論を本格化させたことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		大阪大学を幹事機関として日米科学技術協定における新たな枠組みに関する政府間協定の締結に努めたこと、ルーマニアELI-NPとの学術交流協定の締結及び常設の連携オフィスを設置するとともに、多数の部局間学術交流協定を締結し、研究・教育に関する連携を推進したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入について、産学連携の基盤となる「レーザーオープンプラットフォーム」などを独自経費で研究所内に整備することで、実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:低温センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	B	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。 平成27年度からの豊中・吹田のヘリウム液化装置の更新に伴う各種整備が行われ、使用電力も3～4割の削減となったこと、平成30年度中頃からのヘリウムの供給不足に際しても、備蓄量を調整しながら学内供給を維持したことなどが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの論文数について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入金額及び公開講座等の実施件数については、実績がないためC評定としているが、部局の特性上、実績を上げることが困難であることは理解している。今後、本部と対話をしながら、貴部局の特性や強みを発揮し活躍できる部分において、より高い目標を設定し、その実現に取り組んでいただきたい。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:超高压電子顕微鏡センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		「超顕微科学研究拠点事業」において連携ネットワークの構築を進め、共同研究を海外1件含めて3件を実施したこと、基盤的研究に関して、材料科学や医学生物学への応用によって多くの論文発表に結びつけたこと、大学・研究機関と18件、企業と4件の共同研究を行い、論文発表に結びつけたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		ナノテクノロジープラットフォーム事業により学内共同教育研究施設の枠を超えた研究支援活動を行い、研究課題や技術課題の解決に貢献したこと、複数の企業と共同研究を実施し、基礎研究段階から社会課題の解決を意識しながら製品開発や人材育成に貢献したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		6月18日の大阪北部地震により、2台の超高压電顕他、多くの汎用電顕が損傷したが、仮修理を実施し、2019年度内には復旧させる目途をつけており、業務運営に努めていることが認められる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入金額について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

また、常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで、これまでなかった実績を上げていることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 環境安全研究管理センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		化学物質に係る環境保全に関して安定的な業務運営を行うほか、薬品管理支援システム(OCES)及び高圧ガス管理支援システム(OGCS)の更新に際しては日本で初めて外部クラウド化による新システムへの更新を達成し、運営の合理化および情報セキュリティの強化を行ったことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員基礎データ入力率について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 国際教育交流センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	B	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評価に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		関西大学が主幹校として実施する「留学生就職促進プログラム」にコンソーシアム大学として参加協力するとともに、「留学生のためのキャリア講座」を8回開講するなど、留学生の就職支援を実施したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		「OU日本語ひろば」の開設、「キャリアデザインとビジネスコミュニケーション」の開講など留学生のキャリア形成支援は行われているものの、計画にあるような企業と留学生との交流活動も実施できておらず、実施に向けた検討が必要である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの論文数について、積極的な取組により実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評価としているが、部局の特性上、実績を上げることが困難であることは理解している。今後、本部と対話をしながら、貴部局の特性や強みを発揮し活躍できる部分において、より高い目標を設定し、その実現に取り組んでいただきたい。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:生物工学国際交流センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		カリフォルニア大学デービス校との共同研究を行うとともに、他部局(工学研究科、薬学研究科など)とのネットワークを形成するなど、国際的な研究環境の整備等に努めていることが認められる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		本学大学院生(27名)を海外大学(ASEANキャンパス含む)の大学に派遣するプログラムを運営し、留学生や若手研究者を積極的に多数受け入れ、ASEANキャンパスプロジェクトの運用や、ナレッジパートナープロジェクトに貢献したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 クロス・アポイントメント実施件数について、積極的な制度活用により、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、100%を達成していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:太陽エネルギー化学研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。 昨年度を上回る外部資金を獲得してプロジェクト研究を遂行し、水と酸素から過酸化水素を世界最高効率で合成できる光触媒を開発したことや、可視光を効率よく利用できるプラズモン光触媒のナノ構造の設計指針を新たに示したこと、また、変動する太陽エネルギーを吸収する次世代二次電池としてその実用化が期待されているリチウム空気電池の容量を決定付ける因子を明らかにしたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。 代替エネルギー原子力庁サクレ研究所(フランス)やカルガリー大学(カナダ)との人的交流を含む国際共同研究を実施したこと、また、インド工科大学ハイデラバード校からJSPS研究員を迎え、共同研究を実施したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得について、積極的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばすとともに高い水準に達し、大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 また、常勤教員一人当たりの競争的資金(科研費以外)の採択金額についても、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名：国際医工情報センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		メディカルデバイスデザインコース、再生医療：細胞製造設計エキスパート育成講座(ファンダメンタルコース)に加え、新たに同(トレーニングコース)の提供を開始した結果、139名の社会人、1名の地域連携大学院学生と33名の本学大学院学生が受講したこと(トレーニングコースは社会人16名が受講)が評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		新たに再生医療：細胞製造設計エキスパート育成講座(トレーニングコース)の提供を開始し、受講料として合計約2,176万円(前年比約35%増)の収入が得られたことが評価できる。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金獲得金額について、意欲的に取り組むことで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 数理・データ科学教育研究センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
A	B	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		全学の学部生を対象に数理・データアクティブラーニングプランとして統計リテラシー・応用数学科目を40科目提供し、単位認定者1,718名の成果を収めたことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 公開講座等の実施件数について、教員数が少ない中でも積極的に取り組むことで、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入金額については、実績がないためC評定としているが、部局の特性上、実績を上げることが困難であることは理解している。今後、本部と対話をしながら、貴部局の特性や強みを発揮し活躍できる部分において、より高い目標を設定し、その実現に取り組んでいただきたい。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 日本語日本文化教育センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		10月より導入した日本語・日本文化研修留学生への新たなプログラムに対して各種調査の結果から満足度が高いこと、私費学部留学生予備教育プログラムにおいて日本語のクラスを2クラスに増やし、教育効果のアンケートでも肯定的評価が100%であったことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		教育実習指導事業において10大学から延べ99名の教育実習生を受け入れたこと、TV会議システム等を利用した遠隔教育に積極的に取り組み、授業配信を5大学と計8回実施し、相手側学生から100%に近い満足度を得たことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		320名の留学生に加え、聴講学生34名、学内諸部局所属の学生59名が国際交流科目を履修するなど、本学のグローバル化に貢献していることが認められる。
【業務運営】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員に占める女性教員の割合について、外国人教員雇用支援事業を活用するなど、組織として積極的な採用に努め、実績を大きく伸ばしていること、かつ高い水準を維持し、大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入については、実績がないためC評定としているが、部局の特性上、実績を上げることが困難であることは理解している。今後、本部と対話をしながら、貴部局の特性や強みを発揮し活躍できる部分において、より高い目標を設定し、その実現に取り組んでいただきたい。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:ナノサイエンスデザイン教育研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		新たな試みとして全コース共通講義を年間4回開講し、正規受講生以外にコンソーシアム会員企業から合わせて142名の参加者を得たこと、また、遠隔配信のクラウド化のテストを実施して来年度の移行を決定するなど、受講者数の増加と遠隔配信拠点の拡大を図ったことが評価できる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		産学コンソーシアム参加企業(29社)との間で研究交流、人材育成に貢献するとともに、H30年度未来共創思考サロン活動支援プログラム「関西ナノテクネットワークの機能強化」に採択され、「ナノIoT」をターゲットとしたスマート社会構築に必要な科学技術とその有り様を議論した結果、H31大型産学共創コンソーシアム組成支援プログラムへの提案を行ったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		グローニンゲン大学との国際交換講義にベトナム科学技術アカデミー(VAST)物質科学研究所を加えて5カ国での講義を実施したこと、またベトナムでのジョイントワークショップを開催したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金の獲得件数について、研究発表会の開催による研究の進展の把握や申請書作成指導など組織的に取り組み、実績を非常に大きく伸ばしていることが高く評価できる。 常勤教員一人当たりの共同研究・受託研究の受入件数について、積極的に取り組むことで目標値を上回り、かつ大学実績に大きく寄与していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名: 知的基盤総合センター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評価
S	A	S

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
		知的財産に関する内容を他研究科の科目の一部として共同開講するなど、部局のニーズに柔軟に対応した取組が認められる。
【研究】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		学習指導要領に知財創造教育が含まれたことを踏まえ、近畿地方の高校生などに対する授業の実施や、大阪教育大学が実施する教員免許更新講習における知財創造教育関連の講義への協力などを行ったことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		他部局からの産学連携に関する15件の相談を受け付けたこと、産学共創本部と連携し、本学職員を対象とした知的財産管理に関する技能検定の国家試験の研修や知的財産の基礎、先行技術の調査等を中心とする研修を行ったこと、新たに本学発ベンチャーに対する法的支援を開始したことが評価できる。

【評価区分2: 「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの論文数について、積極的な取組により、実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、外国籍教員の割合について、積極的な採用に努めることで実績を伸ばし、大学実績に大きく寄与していることが評価できる。

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名：核物理研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		JSTさくらサイエンスプランによる日亜国際スクールを開催し、東南アジア3か国の学生16名に対して講義やサイクロロン実験施設における実験実習を行ったことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		J-PARC: K中間子ビームを用いたハドロン物理の国際共同実験研究において、全く新しいタイプの原子核束縛状態を発見したことを国際学術誌で公表し、プレスリリースしたこと、また、産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラムOPERAの量子アプリ共創コンソーシアムへの参画機関を14大学・研究機関、23企業に増やし(前年度の約1.5倍)、半導体ソフトウェア対策とアルファ線核医学治療法開発を進展させたことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		22件の施設見学を実施し、954 名の見学者を受け入れた。全国9の高校(うち5校は昨年度も実施)から377名が訪れたこと、また、ストレンジネス核物理国際スクール(SNPスクール)を主催し、内外から著名な研究者5名を講師に迎え、本学の学生を含む、内外の若手研究者や大学院生42名に対して講義を行ったことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		14名の外国人留学生を受け入れ、11名の学生を海外に派遣したこと。また、外国人に対する共同利用・共同研究の支援としてRCNP主催の日本語クラスを開催し、RCNP内外から32名の受講者を受け入れたことが評価できる。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		クロスアポイントメント制度により、教授クラス1名、准教授4名(うち女性3名)及び海外より6名の著名な研究者を受け入れたことが評価できる。

【評価区分2：「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員一人当たりの科学研究費補助金獲得金額について、意欲的に取り組むことで実績を非常に大きく伸ばしていること、かつ大学実績に大きく寄与していることが高く評価できる。 また、公開講座等の実施件数について、積極的に取り組むことで実績を大きく伸ばし、大学実績に大きく貢献していることが評価できる。
--

平成30年度実績に係る部局評価書

部局名:サイバーメディアセンター

【評価区分1】 部局評価計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		授業支援システムCLEについて、2019年3月後半から学外サーバによるサービスと2019年度中にクラウド化へ移行する計画を策定し実施したことが評価できる。
【研究】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		戦略性が高く意欲的な計画として、NEC 共同研究部門と応用情報システム研究部門の連携により高性能計算／データ分析の研究開発を進めるなど、先進的計算機アーキテクチャや、次世代クラウド技術(AI技術を用いた電力最適化技術、DLUIによるデータ解析技術など)の研究を企業との共同研究部門や協働研究所で推進し、研究成果の社会普及を推進したことが評価できる
【社会貢献】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【グローバル化】	A	平成30年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	S	平成30年度計画の達成状況が優れている。
		キャンパスクラウドの利用拡大を推進して新たに6システムが利用を開始したこと、約2%の冷却効率の向上により、全学的な消費電力削減に貢献していることが評価できる。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】 常勤教員に占める女性教員の割合について、積極的な採用に努めることで実績を大きく伸ばしていることが評価できる。 また、常勤教員公募に占める国際公募の割合について、前年度に引き続き、100%を達成していることが評価できる。
